

和良の郷だより

田んぼオーナー制度「収穫祭」

— 五穀豊穫を祝い感謝する「おもちつき」 —

11月4日（日曜日）は、「田んぼオーナー制度」、「ファームトラスト制度個人会員・企業会員」で、今年最後のイベントとなる「収穫祭」を行いました。この日は収穫されたお米「奥美濃清流米」をお持ち帰りました。

会の始めには今年のお米の出来に関して、岩出さんからの総評をいただきました。今年は環境に恵まれた年とは言えません。気温が高かつたり、豪雨の影響があつたり、台風の被害など自然の猛威の中、和良のお米は頑張つて美味しく育つてくれたと思います。この日は雨が降り、前日に比べると若干気温は高かったのですが、すっかり肌寒くなり、みなさん寒さに驚いておられました。

そんな寒さに負けじと大人も子どももみんなで収穫を祝う「おもちつき」も行いました。嬉しいことに、年々ご参加いただくご家族も増え、それに比例してつくりお餅の量も増えています。昨年も増やしたのですが、あつという間にペロッと無くなってしまったので、今年はもう少し増やそうと1.2升ものお餅をつきました。お餅は、あんこや、大根おろし、きなこ、海苔巻きなどで食べましたが、「美味しい美味しい！」といっぱいおかわりをしてもらい、嬉しかったです。やつぱりつきたお餅は格別ですね。

お餅をつくる方は少し疲れましたが、みなさんの笑顔に報われました。

また、お米を車に積み込む際には「来年も開催してくださいね！」や、「来年も参加しますよ。」などお方々と、子ども達に田んぼの体験をさせたいと参加い

ントが悪天候の為中止となつてしましましたが、田植えや草取りなどとともに開催してきた田舎料理体験も好評をいただきました。毎年、あれこれと反省する部分もありますが、なんとか皆さんに楽しんでいただけた様にとスタッフ一同努めてきました。まだまだやりたい事、改善する事、野望もあります。どうか今後の進展にもご期待いただきたいと思います。

木枯号
12月1日号
和良おこし協議会発行

あ
和
良
し
協
議
会

ただいたご家族などで一年を通じて楽しく学んだり、体験をしていただきました。今年は生憎と一番人気である稻刈りイベ

和良おこし協議会では、持続する町づくりの一環として移住促進を進めています。

郡上市や和良町へは、

現在も移住希望者から多くの問合せやご相談がありましたが、ご紹介できる空き家が大変少ない現状となっています。その一方で和良町内では空き家が増えています。維持管理ができない空き家は、数年で住めなくなり、防犯上も危険ですが、空き家に住む人があれば家の管理ができます。



移住者を受け入れてくれる地域は、人が人を呼んで人口も増える傾向にあるようです。地域住民と良い関係ができれば、住み続けることができる移住者の方に紹介できる空き家の情報を持つ方が、まずは仕組みについてじっくり話が聞いてみたいという方があります。連絡をお寄せ下さい。

どうか、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

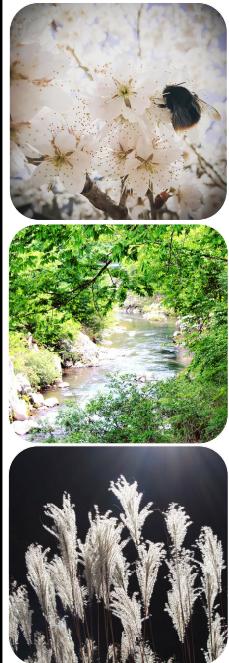


あ
和
良
し
協
議
会



③ 和良おこし協議会などの立会にて、賃貸契約

「和良の郷だより」 加藤真司
- 岐阜新聞【素描】連載より抜粋 -



和良町は2004（平成16）年に町村合併するまでは郡上郡和良村でした。1894（明治27）年に誕生してから115年、約96%を山林に囲まれ、中心部を流れる和良川とその支流に沿って田んぼが広がり、集落が点在する単独村として、先人から歴史と文化・伝統を受け継いきました。

現在の和良町の人口は約1750人。ピーク時の1948年の人口4235人に比べて約60%の減少です。合併直後の2319人と比べても、この10年ほどで25%の人口が減少したことになります。和良で生まれ育ち、高校を卒業して、進学や就職などで地元を離れる若者がたくさんいます。地元には産業が限られるため、多くは近隣の町に勤めに出ています。そういう私も高校を卒業して夢を追いかけ、都心部に出て約20年間を過ごしました。

農山村の人口減少、少子高齢化、農林業の衰退、雇用の場の減少、公共交通機関の不便さ、結婚難などのデータを基に、消滅可能性の危機感をあおられ、過疎地域とか限界集落とかに定義されています。例え話で和良は元気です。いいあんばいの田舎です。そんな和良町の暮らしを紹介させていただきます。

呂温泉に行く時に通った事があります」とか、「郡上に行くときに通った事があります」と言つた答えが返つてくることが多くありました。気にかけていなかつたりすると、あつという間に通り過ぎてしまうような所です。同市の八幡町や明宝、下呂市に隣接し、八幡町と下呂へは、それぞれ車で30分程度です。

郡上郡和良町を知っていますか？少し前だと、「下呂温泉に行く時に通った事があります」とか、「下呂に行くときに通つた事はあります」と言つた答えが返つてくることが多くありました。気にかけていなかつたりすると、あつという間に通り過ぎてしまうような所です。同市の八幡町や明宝、下呂市に隣接し、八幡町と下呂へは、それぞれ車で30分程度です。

外に出て和良町の暮らしを伝える
「10月～11月・3つのイベントに参加 -

「東京国際映画祭」

東京国際映画祭は、日本で唯一、国際映画製作者連盟公認の映画祭であり、六本木ヒルズを中心に映画を核とした各イベントが実施されます。大人から子どもまでが楽しめるワークショップやセミナー、シンポジウムなどが開催され、フォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルです。

10日間の期間中、郡上市は「郡上藩江戸蔵屋敷」事業の一環として味覚でも郡上を知つてもらえるような企画を行いました。

10月30日（火曜日）は、いいあんばいの田舎「和良町」の暮らしを紹介しようと和良町に移住してパン屋さんを開業された「いそばん」さんのパンを数量限定で販売すると共に、移住相談窓口の開設も行いました。

「町家オイデナーレ2018」

郡上八幡の「かつて」と「いま」と「あした」が不思議に混ざる町家フェス。町家を巡るツアーやはじめ、郡上八幡で活動される団体や個人はもちろん、郡上市全域からいまを暮らし、あしたを見据える人たちが多く参加される町家オイデナーレに参加させていただきました。

和良おこし協議会は、10日（土曜日）は「越前屋」さん、11日（日曜日）は「町家玄麟」さんにて和良町の暮らしを紹介するブースを設置させていただきました。八幡での出店ははじめてとなる「いそばん」さんは大盛況にて両日とも早々に完売となりました。いそばんさんの「御塩ばん（ごえんばん）」には、和良から小豆島に移住して塩づくりをされている「波花堂」の「御塩」が使われています。そうやって多くの方と「御縁」をいただきながら和良の元気はますます増えていく事と思います。

ブースには多くの方に訪れていただき、「最近の和良、いいね！」などとお声がけいただき、とても嬉しくなりました。和良町はどんどん元気になつて行きます。

郡上全域から集まつた品々に足りました。

和良町の人口

平成30年11月1日現在

人口

1,682人

男性

819人

女性

863人

世帯数

656世帯

